



一東北生産性本部一

第41回仙台シンポジウム7月例会開催

テーマ

「次代に生き残る組織とは」 ～ AI、IoT、フィンテックの時代の中で ～

第41回仙台シンポジウム7月例会は、作家の江上 剛氏を迎え、約50名の参加を得て開催いたしました。

■ 7月例会（平成30年7月20日開催）

講師 作家 江上 剛 氏

プロフィールなど

1977年 早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業、第一勧業銀行（現・みずほ銀行）入行

1997年 「第一勧銀総会屋事件」に遭遇、広報部次長として混乱収拾に尽力

その後のコンプライアンス体制に大きな役割を果す

2002年 銀行員としての傍ら「非常銀行」で小説家デビュー

2003年 銀行を退行し作家として本格的に活動

著 作 働き方という病、ザ・ブラックカンパニー、失格社員、庶務行員 多加賀主水が許さない 他多数

【ご講演要旨】

- どのような時代であっても人が大事。20世紀は戦争もあって大変な時代であったが、一方でたくさん雇用を生んだ。21世紀はコンピューターの目覚ましい発達があったが多くの雇用は生まれないうし、一部の人が大きな資産を持っているような状況。
- 今の人々はデータに頼り過ぎ。データは過去のもの、未来のデータというものは存在しない。
- 某コンビニ創業者の「おでん」をお店に置くに至ったエピソード。
「コンビニ」という名前をつけたことで、街の小さな小売店とは違う道を選択。「コンビニエンス」とは便利さを売ることであり、お客様が求める便利さをずっと考えていた。たまたま街を歩いていた時に屋台のおでん屋が数件あった。みんなおでん屋で楽しんでいる。その瞬間に「おでんを置こう」と閃いた。常に、10人全員が賛成したらやらない、10人全員が反対したらやるというスタンス。「おでん」や「おにぎり」を店に置く時にもみんな反対した。お客様の「ために」ではなく、お客さまの「立場に立って」ということを常に従業員に言い続けていた。



- ・「ために」というのは供給者側の論理。大きな企業では「〇〇のために」と言うが嘘ばかり。「AI」「IoT」を用いて消費者のためにデータ分析しても、みんな(誰もが)考える同じような答えになる。品質の差やサービスの差にならず、価格の競争になってしまい、安売り競争で廃れてしまう。
- ・A→B→Cの発想ではなく、A→B→Zに行かないとダメ。若い人はZの発想持っていない、組織にいる間に段々とその発想をつぶされていく。
- ・ポイントは3つの「C」
「community コミュニティ (共同体)」「curation キュレーション (収集)」「conbening コンベニング (開催すること)」
例としてのアメリカの大型小売店舗
〔P社〕お客様により添い、徹底して非効率、コンセプトは買い物が楽しい
〔A社〕徹底して効率、A社の会員のため
どちらの会社もやり方は全く異なるように見えるが、それぞれがお客さまの立場になって考え、3つのCとつながっている。
- ・3つの「C」に加えて、大事なこと
「コミュニケーション」…お客様、社員や部下 等々
「カンタフル」…楽しく働く職場は伸びる
「コンプライアンス」…法律さえ守ればいいということではない、信用・信頼が大事。
大きく生んで小さく育てること。
- ・物凄く時代が変化している時、データ分析も大事だが、日頃からどういうスタンスで仕事に臨んでいるかということが、次代に生き残る組織につながっていくのではないか。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。

第41回 仙台シンポジウム

*会場：仙台商工会議所会館7階 大会議室

8月例会 平成30年8月27日(月) 15:30~17:00

『生産性向上に繋がる人材投資改革 ~新・生産性3原則の構築を~』
講師：(株)日本総合研究所理事 山田 久氏

10月例会 平成30年10月17日(水) 10:15~11:30

『高齢化社会の雇用再生』
講師：慶應義塾大学商学部教授 清家 篤氏

11月特別例会 平成30年11月15日(木) 13:30~16:30

- ①『日本の生産性は本当に低いのか ~生産性向上に向けた今後の方向性~』
講師：(公財)日本生産性本部生産性総合研究センター上席研究員 木内 康裕氏
- ②『東京消滅 ~介護破綻と地方移住~』

講師：野村総合研究所 顧問 増田 寛也氏

12月例会 平成30年12月5日(水) 13:30~15:00

『2019年 世界の潮流を読む』
講師：(一財)日本総合研究所会長 寺島 実郎氏